

飛躍 part 3



2024年（令和6年）
10月3日（木）
第 170 号

天候が心配されますが、 体育大会に向けて準

備をしっかりと

日本近海に現在2つの台風が発生しています。17号は日本の東海上を北上し、日本列島には大きな影響をもたらすことはないようですが、18号は迷走台風で、今後の進路が予想できにくい状態です。このまま大陸の方に行く予想されていますが、本番が雨にならないように祈っています。（雨天順延）



さて、昨日は予行でしたが、どうだったでしょうか。「本番大丈夫？」と思う場面もありました。各自振り返って見て下さい。体育大会のメインの種目は何か。「紅白対抗種目」ですか。「学級対抗種目」ですか。どちらも勝敗がはっきりつくので、みんな頑張り、盛り上がると思います。しかし、一番時間をかけて取り組んできた演目は何か。それはダンス・マスゲームですね。得点はありませんし、勝ち負けもつきません。けれど、夏休み前からダンスリーダーは振り付けを考え、暑い夏休み中に伝達講習会を行って来ました。なぜこれだけ時間をかけて取り組んだのですか、1年生から体育の時間に取り組んできた、ダンスのまとめであり、体育大会の主役が78回生だからです。保護者も含め、多くみなさんに普段の学校生活の一端を披露する演目だからです。みんなはどんな「マスゲーム」を目指していますか。せつかく披露するなら、最高のパフォーマンスにして欲しいと思っています。昨日の予行を終えて自分で採点して下さい。いったい何人もの人が合格点を付けることが出来たのでしょうか。

マスゲームだけで、先生方が採点するなら、錦城中学校のこの数年間（おおよそ5年）の中で一番ダメダメです。まずリーダーが踊れていない（動きが小さく真剣な気持ちが伝わってこない）。声が出ていない。おのずと全体の動きや振りがいい加減になっています。手の位置や動きが小さくなっていませんか。中心で披露する3年生が一番できていません。グラウンドいっぱい全校生216人でパフォーマンスするので、これ以上ないくらいに大きく踊ってちょうど位なのです。はっきり言って表現しようとするのが全く伝わってきません。そして表情がない（笑顔がない、暗い）。みんなの武器ははじけるほどの若さと躍動感です。表情がないとまず楽しそうではありませんね。ですからおのずと声も小さくなり、グダ

グダのパフォーマンスに見えてしまいます。

今まで練習も含め全力で頑張ってきた人もいますが、暑い中時間を使ってやってきたことが無駄になってしまっています。残念ながら現時点で体育大会最後のパフォーマンスにふさわしい演目になっていません。頑張っていないのではなく、頑張りが足りていないのです。「本番はちゃんとやるから」と言ってちゃんと出来た事がありましたか。練習で出来ないものは本番では更に出来ないのです。本番に向けて時間は限られています。今できる最高のパフォーマンスになるよう、今まで以上に意識して残りの練習に取り組んで欲しいと思います。



**出場している人の懸命な姿
観覧している人の心からの応援
係の仕事をしてきぱきと行っている動き
全てが体育大会です。**

新潟県でジュニアダンスの指導者で、世界的に活躍されている国友慎之助さん。ダンスを始めたのは18歳の時です。国友さんのお母さんは「よさこい」で町おこしを成功させ、「よさこい」を世界に広めた立役者でした。お母さんの『ダンスで世界を良くしていきたい』という姿に憧れて始めました。

国友さんは、「ダンスは、人間や文化の美しさを肉体で表現し、その魅力を伝えることが出来る、限らない可能性を秘めたコンテンツです。そして人と人・人と国・国と国を繋げることも出来ます。僕はそんなダンスのエネルギーをもっと活かしていきたいと考えています」と語っています。そして医療・観光・教育とダンスを融合させ、地方の創世にも取り組んでいらっしゃいます。

新潟では日本最大級のダンスフェスティバル『にいがた総踊り』が毎年開催されていますが、国友さんはその立ち上げから関わっていらっしゃいます。なぜ新潟を拠点にしようと思ったかという、総踊りの出演者の1人の男の子が「先生！僕、一生懸命頑張ります」と目をキラキラさせて訴えかけてきた事と、新潟のみなさんが懸命に応援してくださるからです。心から感謝されています。これまでダンサーとして活躍をされてきましたが、セカンドキャリアの選択肢として、産業として発展させることが使命と日々活動されています。

みんなが体育大会で披露するダンスは、中学校で学習し成長した姿を披露する絶好の機会です。家族や地域でお世話になっている方々に、感謝を伝える演目です。どんな演技にするかは、演じるみんなの気持ち次第です。心1つに最高の体育大会の最高のフィナーレになるようにしよう。